

片頭痛予防のための注射薬の説明書

片頭痛予防薬には内服薬の他に注射薬があり、専門医のみが処方できます

1.作用

この注射薬は CGRP という神経内で痛み刺激の原因となる物質を直接ブロックしますので、効果が高く、世界中でこの治療が勧められています。内服薬では神経の興奮や血管の拡張を抑えて、片頭痛を予防しますが、効果は限られ、即効性がなく、副作用が多いです。



2.効果

個人差がありますが、平均すると注射薬により片頭痛の強さも頻度も約半分になります。重症の片頭痛では長期に注射薬の治療を継続することで、徐々に効果がでてくることが多いです。よってまずは2-3回試して、効果があれば継続することをお勧めします。中止はいつでも可能です。片頭痛予防の内服薬は継続して、注射薬の効果が出たら、内服薬の減量、中止が可能です。



3.投与方法

この CGRP をブロックする薬剤は、皮下注射のみです。上腕、腹部、大腿部の皮下に注射します。投与間隔は月に1回1本で、薬剤によっては3カ月ごとに3本注射することができます。最初の2回は病院内で注射します。その際、看護師から注射の方法を詳しく説明します。その後は、在宅自己注射をお勧めします。これは薬局から注射器ごと受け取って、冷所保存し、自宅で患者さん自身や家族によって注射していただきます。使用後の注射器は医療廃棄物なので、病院や薬局に持って来て下さい。在宅自己注射では一度に2本以上の処方が可能で、通院間隔は2か月以上になります。他の内服薬や注射と併用は問題ありませんが、注射部位は別にして下さい。



4.副作用

注射部位の痛みや腫れがみられることがありますが、多くは一時的です。腫れやかゆみが強い場合は、かゆみ止めの塗り薬で改善します。初回は気分が悪くなる場合もあるので、注射後 30 分程度院内で休んでいただきます。他に大きな副作用はありません。妊娠、授乳に対する安全性は確立されていません。



5.費用

通常は薬剤費の 3 割が自己負担になります。保険者番号の最初の 2 桁が 06, 31-34, 72-75 の方は 1 ヶ月の自己負担額が約 25000 円を越えた場合に、付加給付が適応されればその超過分が払い戻されます。3 つの会社より 3 種類の注射薬が販売されています。効果と副作用は薬剤間では大きな違いはありませんが、個人差があり、どの薬剤が最も効果があり、副作用が少ないかは使用してみないとわかりません。1 種の薬剤が無効な場合は他に変更すると有効なことがあります。

注射薬料金 エムガルティ：初回のみ 2 本注射が必要 1 本約 42600 円（3 割 1 本約 13000 円）
アジョビ：月 1 本、他に 3 ヶ月に 3 本注射可能 1 本約 39060 円（3 割 1 本約 12000 円）
アイモビーク：月に 1 本注射します 1 本約 38980 円（3 割 1 本約 12000 円）

付加給付 例 エムガルティ：初回に 2 本使用する場合
アジョビ：クリニックで一度に 3 本注射する場合
在宅自己注射：3 ヶ月分をまとめて処方する場合

6.休薬、卒業

片頭痛が改善したら一度この注射薬をやめることをお勧めします。また片頭痛が再発悪化すれば、いつでも再開できます。



エムガルティをご使用される患者さん向けサイト

<https://www.emgality-patient.jp>



アジョビをご使用される患者さん向けサイト

<https://ajovy.jp>



アイモビークをご使用される患者さん向けサイト

<https://www.aimovig-pts.jp>

